

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	令和2年度第2回松阪市総合教育会議
2. 開 催 日 時	令和2年11月24日（火） 15時～16時
3. 開 催 場 所	松阪市役所 第2分館 教育委員会室
4. 出席者氏名	出席委員 竹上真人市長、長島彩子教育長職務代理者、岡田光生教育委員、長井雅彦教育委員、谷口雅美教育委員、中田雅喜教育長 事務局 家城企画振興部長、藤木企画振興部経営企画課長、山路経営企画課政策担当主幹、小川経営企画課政策経営係長、鈴木教育委員会事務局長、村田教育委員会事務局次長、中西教育総務担当参事兼教育総務課長事務取扱、塩野学校教育課長、尾崎学校支援課長、小泉学校支援課子ども安全・安心担当監、畑中学校支援課生徒指導係長、脇葉学校支援課教育課程係長、西出子ども支援研究センター所長
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	2人（内、報道関係2社）
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・協議事項

- 1) 松阪市教育大綱（案）について
- 2) コロナ禍（ウィズコロナ、アフターコロナ）の中で子どもたちや学校教育に期待すること

◎内容録は別添

令和2年度 第2回松阪市総合教育会議議事録

開催日時：令和2年11月24日（火） 15時～16時

開催場所：松阪市役所 第2分館 教育委員会室

出席委員：竹上真人市長、長島彩子教育長職務代理者、岡田光生教育委員、長井雅彦教育委員、谷口雅美教育委員、中田雅喜教育長

事務局：家城企画振興部長、藤木企画振興部経営企画課長、山路経営企画課政策担当主幹、小川経営企画課政策経営係長、鈴木教育委員会事務局長、村田教育委員会事務局次長、中西教育総務担当参事兼教育総務課長事務取扱、塩野学校教育課長、尾崎学校支援課長、小泉学校支援課子ども安全・安心担当監、畑中学校支援課生徒指導係長、脇葉学校支援課教育課程係長、西出子ども支援研究センター所長

傍聴者：2人（内、報道関係2社）

1.市長あいさつ

改めましてみなさんこんにちは。大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。コロナですが、第3波で大変なことになっていきそうな勢いです。今のところ教育へご迷惑をお掛けするところまでいっていませんが、そういう事態にならないように万全を期していきたい。

今日はアフターコロナの話も含め、皆さんにいろいろとご議論いただきます。また、今年度は教育大綱を定める年ですので、お忙しいところ更にあともう1回お集まりいただき、教育大綱を定めていきたいと思っておりますので、積極的なご発言をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

【松阪市総合教育会議設置要綱第4条に基づき、竹上市長が議長となり進行】

市長）

それでは、事項書に沿って会議を進めてまいります。会議は公開することとなっておりますが、非公開情報が含まれる場合は非公開とすることもできます。非公開情報が含まれる案件はございませんので、本日の会議は公開とさせていただきます。

2.協議事項

1) 松阪市教育大綱（案）について

【経営企画課より資料1について説明】

市長）

事務局より「資料1」について説明がありました。

まずは、論点①の「教育課題」についてです。ここで、はじめに私からの意見ですが、就任以来「子育て一番宣言」のもと、病児病後児保育や放課後児童クラブの増設など、様々な取組を行ってきております。その中で、課題として認識しているのが、子育てをする保護者の負担が大きいことです。そこで、子育て支援を推進する必要があり、課題の一つとして入れてはどうかと思っております。

この意見も含めて、委員の皆さんから課題がありましたらお聞かせいただければと思います。

委員)

今までもいろいろな課題があり、いろいろやっていただいている。新しいものとしては、タブレットが配られるが、活用方法はいろいろあると思う。運用する教職員がそれを使えるように勉強していただきたい。

委員)

松阪市は ICT 教育が先進的な取組をしていて良いと思う。デジタル教育が進んでいるが、逆にアナログ教育の必要性もある。特に読書離れです。前回の会議で、他の教育課題の解決が進んでいる中で、子どもたちの読書は進んでいないという結果であった。読書の中で人間の情操教育ができる。読書指導は難しいが、ありとあらゆる方策を考えるべきだと思う。私は高校で朝読書の取組を設けて良かったと思っている。決められた時間、ある意味強制的に全員が読む。本は強制的に読むものではないと反対する先生もいるが、授業は強制的に何ページを開いてとやっているのだから、強制的に読書の時間を作っても良いと思う。

また、幼児期に絵本の読み聞かせをされてきた子どもは読書習慣が付き、生涯教育にも関わる。思春期で荒れても文章を読む力があると挽回できる。そういう意味で成果は出にくい忘れてはいけないところ。

委員)

松阪市は ICT 教育がかなり進んでいる。更なる先をめざしつつ、もっと上をめざすと良いと思う。また一つずつではなく、タブレットの活用とグローバル教育などをくっつけて考えて発展できるようにしていく。

例えば読書であれば、電子書籍の活用や窓口で子どもたち自身のおすすめの本の紹介を見ることができるようなど、タブレットの活用を有意義にし、更なる強みとしていろいろなものを使っていければ良いと思う。扱えるプロを作り、教員、保護者と広げていくと良いものになると思う。

あと、この資料にはないので LGBT の問題は入れた方が良いと思う。

委員)

三重県の中南勢の教育長会議に先日出させていただきますして、その中でも松阪市の ICT 教育は先進的で、各教育委員会のモデルになるようなところまで進んでいると実感

しました。

11月4日付けの新聞で、デジタル教育が進んでいる日本の地域、世界各国のコロナ禍における家庭での学習等が進んだ中で、デジタル教育格差が出ているという報告が各国、地域であがっているとされていた。今後松阪もタブレットの活用が進んだとしても、使う人は使うし、慣れない人は使いにくい。それがデジタル教育格差につながる。その対応も渡したから終わりではなく、教職員の教育、研修も併せて行い、どこまで進んでいるかの把握や、それに対する対応まで考えておかないとうまく運用できないと思う。

市長)

論点②も含めて議論を進めていきます。デジタル教育の格差問題、多様な性のLGBT、文章を読む力をつける、いかに読書習慣をつけるかは、一人ひとりの教育を確保する手立てをどのようにしていくかが課題というご意見であったと思います。どう解決していくかというのは、これをやったら解決するというものではないにしろ、何かしらのキーワードをお出しいただき、新教育大綱に入れていければと思います。

委員)

このキーワードを新教育大綱のメインとして載せるのか、どのような扱いにするのか。

市長)

現教育大綱の3ページ4ページに基本理念と基本方針があります。基本理念はそう大きく変えるものではないので、基本方針の中に入れていくことになります。GIGAスクール構想は4年前に全くなかったことです。児童生徒が一人一台タブレットを持つ時代が、こんなに早くやってくるとは思っていなかった。今日課題としていただいた、デジタル教育格差は基本方針の中にそれなりに入れることになると思う。

委員)

ぱっと見た感じで抜けているのはデジタル化。全体像としては、そういうものを入れていただきたい。

市長)

私を感じているのは、今回、臨時休業でいきなり学校がなくなり、幼児教育もそうですが、各家庭での差が大きくなる。また、保育園と幼稚園でも大きく違う。小学校でも同じで、放課後児童クラブがきちんと機能しないと子どもたちの居場所がない。そこが厳しかった。保育園は公立、私立、認可保育園にしても、きちんとした制度によりやっているが、放課後児童クラブはそこまでの厳しさがなかったので、閉じてしまったところもありました。大綱なので、子育て支援も教育の前段階として必要かと思う。

LGBTの多様な性もなるほどと思った。平成28年当時にはそれほど言われていなかった話です。

委員)

LGBTに限らずですが、その人の個性を大切にすることに含まれるかと思う。今は国際的になってきて、いろいろな人種の子がいる。その文字を出す必要はないかと思うが、「個を大切に」というのは入れても良いかと思う。

あとは、学校によって違うかもしれないが、地域とのつながりが中学生になると薄くなる。もう少し地域と密になると、放課後の居場所づくりや、みんなで子どもを見ている感覚になる。グローバルも大切だし、お互いが声をかけやすい松阪の地域性が入っているのも良い。

委員)

松阪は外国人の方も多いし、人権的な意味で言えば多様な価値観、多様性を如何に認めていくか。コロナ禍の中で、日本人の同調圧力の問題も指摘されている。幅広い価値観をみんなが持つことで、いろいろな人権問題がクリアされていくのではと思う。

あと、ICT教育が進んでいく中で、文科省でアクティブ・ラーニングと言われていた、みんなで討論しながら高めあっていくことが、これからの教育の課題だと思うが、ICT教育はへたをすると主体的に個別で学んでいける。タブレットを使って一人ひとりが人の影に隠れず自分の意見を出し合い、より効果的に対話的な学習につながるような授業づくりをしっかりとやって欲しい。

委員)

タブレットを渡すことは手段の話で、それを使って何を達成するか、目標設定が非常に大事だと思う。そこを取り違えてしまうと、更にデジタル格差、能力差が出てしまう。やはり目標設定を教育委員会か学校が必要がある。

教育長)

主な教育課題の中で、市長がおっしゃられた就学前の子どもたち、子育て支援がある意味教育の原点。今回の教育大綱、教育ビジョンの中にも入れていくべきではないかと思う。それと、家庭や地域との連携や個に応じた支援などいろいろなご意見をいただきましたが、私自身大切にしていきたいと思っていることが二つあります。

一つは、コロナ禍の中ではるか遠くに見える光がマラソンです。子どもたちが参加するだけでなく、それを見て応援して、またそれを作り上げる喜びがまちづくりに繋がるような、スポーツと連動したまちづくり、というものもキーワードの一つとして入ってくるかと思います。

またもう一つが、ふるさと松阪への誇りです。4人の郷土の偉人冊子を作りましたが、その活用や広げていくことを更に充実させていきたい。今年度は、約6,600人、たぶん7,000人を超える県内、県外の子どもたちが松阪に来てくれ、その子たちが松阪の歴史や文化に対して非常に反応してくれた。だからこそ、松阪の子どもたちには、松阪はこんなところと語れるような教育をしっかりとしていかなければいけない。

先ほどの教育委員会の定例会でも報告がありましたが、中学生の不登校が減ってきて

いる。相談体制を充実させ、今年の予算で訪問型の支援員を作りました。でも一つ欠けているのが卒業した後の子どもたちへの支援。80歳のおばあちゃんの年金で50歳の子どもがインターネットで買い物をする、そのような現状が今の大きな課題の一つだと思います。それを解決するためには、生涯に渡る自主的な学び直しの機会の創出なども必要ではないかと思えます。

もう一点、タブレットについてですが、松阪市のタブレットは協働学習がメインで、調べる手段や個別最適化学習というのが方針の一つです。そのため、タブレットを授業のどの部分でどう効果的に使うかを論点として進めています。更に持ち帰りをどうするか、5年後これをどういう扱いとし、更に高みに持っていくか。タブレットについても大綱にしっかりと位置付けて、5年後やその先も含めて表記できたら有難いと思えます。

市長)

前から変わってきたところで、多様性がダイバーシティという言葉。更にICT教育は新たな光で一項目とするか、確かな学力で書いていくか。そして教育の前段階をいかに大切にするかを入れていければと思えます。

次回まとめがありますので、その時に皆さんに案をご議論いただくということでお願いいたします。

2) コロナ禍（ウィズコロナ、アフターコロナ）の中で子どもたちや学校教育に期待すること

【学校支援課より資料2、資料3について説明】

市長)

資料2、資料3について説明していただきました。お配りしている論点①でコロナ禍の中で子どもたちに期待すること、論点②でコロナ禍の中で学校教育や行政に期待することに分けてありますが、時間もあまりございませんので、まとめて議論したいと思います。

委員)

子どもたちに期待することは、学校が休みになった場合、自分で考えて行動する自立心を持った子どもにこの機会になってもらうことです。

学校教育に期待することは、タブレットが持ち帰り可能になった場合には、うまく利用して学力に差が出ないようにしていただきたい。それと保健衛生上、これからの冬場の換気に規約を設けてもらうと良いかと思う。

委員)

子どもに期待することは、この際自立して自分で考えて行動することです。例えば家庭の勉強として料理をしてもらうなど、年齢に応じてできるのではないかと。

一人一台タブレットになったら、学校が休校であってもタブレットで朝礼をすること

により、生活リズムが崩れなくて良いと思う。来年 1 月以降、今後 3 波、4 波と続いてくるかもしれないし、寒くなって体調を崩す子も出てくると思うので、いつどの学校で起こってもおかしくないという中で、タブレットが入った時点で全校でやってもらえたらありがたい。できるのであればそういう環境を整えてもらえると良いと思う。

あとは、コロナが始まって 1 年近くになってくるが、あきらめる子がたくさんいると思う。あきらめるのは簡単。松阪市の教育委員会では、スポーツ大会や吹奏楽部の発表もしてもらったが、コロナ禍の中であきらめず、形を変えてでも子どもたちが満足できる方法を、行政と教育委員会、保護者が一丸となって知恵をしぼり、考えないといけないと思う。

委員)

子どもに期待することというより、家庭に期待することは、風評被害があったが、親が言ったことが子どもに伝わってしまい、風評被害に繋がっているものもある。子どもだけでなく保護者も含めたコロナ禍における対応が必要。今もやっていただいているが継続してやって行って欲しい。

学校教育に対しては、中学 3 年生の進学の問題がある。学校がストップすることによって、学業レベルがどうなっているのか、子どもも親御さんも心配している。どこに進めば良いのか、そういう相談が増えてくる。その対応を教育委員会でしっかりやっていただきたい。

今回、教育長と一緒に学校訪問をさせてもらったが、学校が休みになった時に、学校や先生によって対応に差があったと感じた。プリントを配って終わりという学校や、そのプリントを回収して問題点を整理して、再度プリントを配った学校もあったと聞いた。また、軽トラックに学校図書を載せて生徒のところに配りに行ったという先生もいた。真摯に対応された先生もいて、いろいろで差があるので、相対的にレベルアップし、生徒に対する行動を起こすことが益々必要になる時代だと思う。

委員)

学校間格差や教師の格差があるのは、仕方ない面もある。その中で良い取組をみんなで情報共有して、教師の負担感ではなく、このようなことをやっている、これならできるという感じでできるとなお良いかと思う。

小中学校は先生の取組も立派で、行事もやっているが、高校では学校行事はほとんどせず、授業ばかりしていた。総合的に生徒を育てていくには、置かれた環境で如何に知恵を出し合ってやるかが課題解決教育なのではないか。

教育長)

現場の先生は一生懸命いろいろな考えでしっかりやってもらっています。ただ今回は、タブレットやアプリを使ってガンガンとばしたところと、そうでないところと差がありました。経済格差が教育格差につながらないよう、子どもたちの学ぶ環境を如何に作るか、タブレットを持ち帰り家庭でどう使うか、経済格差をなくした教育を更に進めるに

はどうしたらよいかなどについて、松阪市では議論をしながら進めてきました。いただいた意見で、換気に気を付けるとか、自立心を養うような子どもたちへの働きかけ、中学 3 年生の悩んでいる子どもたちへの相談を具体的にどうするかなど、早急に対応していきたいと思っています。また、風評被害について、保護者の話が子どもに伝わっているのであれば、その辺りをどうしていくかも合わせて対応していきたい。コロナの時期に、子どもたちに「自分たちはコロナの世代だから」と言わせないように、子どもたちに自信をつけてやりたいし、子どもたちのためにできることをしっかりとやっていきたい。

松阪市は4月の臨時休業の時に、一週間学校を開けました。給食も用意しました。そこには学ぶことに家庭環境の差をなくしていかないといけないと考えたからです。今後とも学校現場の教育課題を更に解決していくために、現場からの声を聞かせてもらいます。

今回の補正で第 2 保健室を作っていく。保健室が汚染されないために具体的にどうすべきかなど、学校現場が直面する課題を解決するとともに、あきらめずにやること、そのような施策をしていかないといけないと思います。

今日、いくつか好事例の話がありましたが、好事例の横展開を進めていきたい。

市長)

コロナの話はよく出ます。ただコロナは悪いことばかりではない。厚労省のアンケートで、夫婦仲が良くなったという割合が 2 割だったそうです。テレワークで仕事をやるから、家庭で話す機会が増えたというものもあった。家庭環境が良くなると子どもも笑顔になる。ポジティブに物事を捉えられる子どもを増やしたい。

また、ICT はチャンス。勉強したい子が家庭環境ではなく、本人の努力で学力が伸びる。悪いことばかりではないが、人との関係を分断するところがあるので気をつけないといけない。

市長)

それではその他の項で事務局から連絡があります。

事務局)

次回の開催について事務局よりお知らせします。次回の開催日は 1 月頃を予定しております。開催日が決まりましたら、追って連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

市長)

それでは、令和 2 年度第 2 回松阪市総合教育会議を閉会させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

《16 時 終了》